

# チベット・ラサ市におけるアレルギー調査

三好 彰・程 雷・殷 敏・時 海波・白川 太郎  
 (南京医科大学国際鼻アレルギーセンター)  
 幸野 健(市立吹田病院皮膚科)

## はじめに

われわれは1989年以来、日本・中国・ブラジルなどでアレルギーに関する疫学調査を実施して来た。それらの結果からわれわれは、これまでも想像されていたように、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患は先進国に多く、発展途上国に少ないことを実証した。

2001年われわれは、標高3640メートルのラサ市堆龍徳慶県において、その地に在住する小学校1・4年生ならびに中学校1年生全員に対して、鼻鏡検査・皮膚科的視診・スクラッチテスト・栄養調査などを含めたアレルギー学的調査を施行した。

## 調査光景



図1: 学校の環境 図2: 検診(小学4年生) 図3: 検診(小学1年生)



図4: 鼻鏡検査 図5: スクラッチテスト



図7: 皮膚科医によるアトピー性皮膚炎の調査 図8: スクラッチテストの判定



図11~13: 身体測定では、体格はかなり小さいことが判った。 図14: ヒマラヤの雪解け水なので、直接飲用できる。

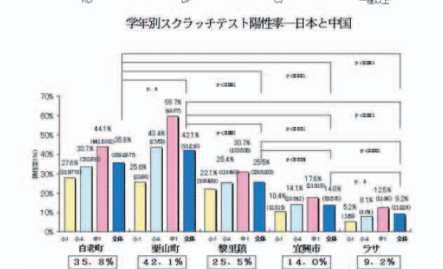
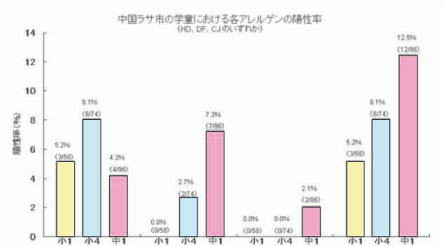
## 調査結果

チベット堆龍徳慶県小中学生の調査結果

	N	HD	ダニ	スギ	カモガヤ	ブタクサ	HD・ダニスギのうち一種以上
小1	58	3	0	0	0	0	3(5.2%)
小4	74	6	2	0	0	0	6(8.1%)
中1	96	4	7	2	3	2	12(12.5%)
合計	228	13	9	2	5	2	21(9.2%)

※うちチベット族221名(96.9%), チベット族以外は7名(3.1%)ですべて小1の生徒である。

図8~10: その結果、全228例のうちHDに陽性反応を呈したのは13例で、ダニには9例そしてスギには2例となり、これら3者のうち1種以上陽性は21例・9.2%であった。この結果は日本の小中学生の4分の1であり、上海に隣接する江蘇省呉江市黎里鎮の小中学生の5分の2であった(カイ2乗検定)。皮膚科医の視診では、アトピー性皮膚炎は1例も存在しなかった。



## 民家での調査



図14: ヒマラヤの雪解け水なので、直接飲用できる。



図15・16: チベット族の家屋内で、ダニ採取を行なう。



図17: バター茶を振舞われる。紅茶の葉をヤクのミルクで煮出し、塩とバターを溶かしたもの。主食がツァンパと呼ばれる大麦の粉を焦したもので、栄養を補う意味がある。



図18: 太陽光で湯を沸かす装置。沸点は低く、煮炊きには圧力釜が必要。

## チベット



図19: チベットの宮廷料理。ヤクの肉に冬虫夏草が刺してある。



図20: グライ・ラマのいたポカラ宮。



図21: チベット密教の聖地・大昭寺

図22: 大昭寺隣の繁華街である八角街。



図23: そこでは鳥葬人が死者の供物を売り歩いている。

## まとめ

アレルギー疾患の環境的要因について、確実な議論はまだ難しい。しかし発展国と途上国のそれぞれにおいて、疫学調査を何十年かにわたって継続することにより、なんらかの手がかりをつかむことができる可能性は高い。今後の研究成果に、俟ちたい。